

公益財団法人宗像ユリックス
平成 27 年度事業計画

平成 27 年 3 月

公益財団法人宗像ユリックス

< 目 次 >

1. はじめに	2
2. 平成 26 年度管理運営の基本方針及び事業について	
(1) 基本方針	3
(2) 事業運営	
① 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」	4～5
② 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」	6
③ 収 2 「利用者サービス事業」	7
④ 公 2 「文化芸術振興事業（文化事業）」	8～11
⑤ 公 2 「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」	12～13
⑥ 公 3 「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」	14～17
⑦ 公 3 「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」	18
(3) 法人運営	
① 組織・運営体制	19
② 財政運営	19

1. はじめに

人は誰でも、人生において、社会において、地域の中で、自分がいまどんなところに立っているのか、その“立ち位置”を自分自身で認識することはなかなか難しい。しかし、他人の目に自分が映される時、はからずもそれを発見できることがある。「そうだったのか」と――。これを宗像ユリックスに置き換えても同じことがいえるであろう。

さきごろ、そんなシーンに出くわした。福岡県内の文化施設の事業担当者を集めて開催された「アートマネジメントフォーラム」研修会。宗像ユリックスは主催者からのご指名によってメインイベントの事例報告を担当することになった。「先進的事例から学ぶ」がテーマである。

報告したのは、もう市民にもお馴染みとなった「いきいき出前コンサート」。九州管楽合奏団メンバーによる生演奏をまず聞いてもらうことから始めた。続いて①なぜ、いきいき出前コンサートなのか②年間 80 回もの事業を地域で展開する狙いは何か③それによって宗像のまちで何が起きているか――。わがスタッフは 100 分間にわたって堂々のプレゼンテーションをやり遂げたのである。

この日のコメンテーターは、全国的に活躍する文化振興アドバイザー。このセミナーでも広い視野からの助言や提言、分析をしてくださっていた。終了後に“非公式”にコメントを聞いてみた。

「ユリックスさん、すごいコトやってますね。こんど、機会があったら全国セミナーで事例報告してくれませんか」。

宗像ユリックスが地道に取り組んできたことへの確信が芽生えた瞬間だった。自らの“立ち位置”への自覚だったともいえるだろう。それはここに紹介した音楽分野だけに限ったことではない。文化・芸術はもちろんスポーツ・健康づくりや市民の生涯学習の拠点であり続けたいと頑張ってきた先輩、スタッフ、市民・利用者みなさんの願いにも通じるのではないだろうか。

平成 27 年度は「戦後 70 年」。時代のうねりが大きければ大きいだけ、市民みなさんの日々の暮らしの中に感動や癒しを届けるユリックスの役割りもまた確かであればならないだろう。大学やコミュニティとの連携という新たな芽ぶきもあるし、宗像市の文化行政との連動も新たな展開が必要だ。

「市民とともに創るユリックス」を改めて肝に銘じて、新しい年度のスタートを切っていきたい。

2. 平成 27 年度管理運営の基本方針及び事業について

(1) 基本方針

平成 27 年度は、第四期指定管理者への「折り返し」の年である。本年も着実に実績を積み重ねることで前回同様、非公募による指定管理獲得が成るように更なる努力を続けていく。特に、市が平成 22 年度に策定した「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の実現に向け、継続して市や市民、利用者、各種団体との連携・協働を進めていく。また、宗像ユリックスは、開館 25 年を過ぎ施設、設備の老朽化に伴う問題が発生する可能性が高くなってきている。今まで以上の管理運営に努める。

①宗像市文化行政政策との連携・協働

財団が培ってきた芸術文化に関するノウハウ・スキルを活かし、宗像市文化行政との積極的な連携・協働を行う。

②コミュニティや市民活動団体、大学などとの双方向の連携

今年度も実施する「ミアーレ音楽祭」や「アウトリーチ」「健康づくり事業」など様々な事業を、コミュニティや大学など各種団体と連携して行い、宗像ユリックスファンを増やす。

また、利用者の生の声を聞く、宗像市民ワークショップ「ユリックス・カフェ」やホール利用者アンケートを実施する。

③健全財政への取り組み

新施設管理システム・新チケットシステムなどの新たな顧客サービスの導入により、「利用者の増加」と「収支改善」を図る。また、組織の効率化にも努める。

④「安全・安心」の宗像ユリックスを目指して

宗像ユリックスは、開館 25 年を過ぎ施設、設備の老朽化に対するチェックが重要となっている。今まで以上に、利用者が安全・安心に利用できる施設の維持管理に努めると共に、市が実施する第二期保全工事の実施をサポートする。

(2) 事業運営

① 公 1、収 1「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」

昨年度は第三期指定管理の 1 年目として、前期より一層お客様の視点・立場に立った施設運営をはかるため、平成 24 年度に実施した市民アンケートの結果をもとに、施設全体に対しての利用実態と満足度の把握と分析を行い、魅力ある施設の運営を行なってきた。

利用料金改定の影響による利用者数の減少と、それによる利用料の減少が懸念されたが、杞憂に終わり、利用者数は横ばいで利用料金は増えるという結果であった。今年度も利用者数及び利用料を維持し、近年続いていた利用者数や利用料の減少傾向を打破するべく、顧客開拓のための施策立案を行なう。

更に施設利用状況の分析を行ない、稼働率の低い施設、時期を減らし、利用者数や利用料金の増加を促す。

また、「夜間有料学習室」、「スタジオ当日受付の半額割引」の継続、「舞台上で気軽にピアノレッスン」の利用推進など、利用者に着した施策を提供していくこととともに新たな施設稼働率向上の施策立案及び実施を目指す。

但し、今年度の 4 月から 6 月の約 3 ヶ月の間、保全工事の為にイベントホールが利用できなくなるため、約 450 万円の利用料金収入の減少が予測される。

サービス面としては、平成 26 年度末に更新を行なった新施設管理システム及び新チケットシステムを利用することで、よりスムーズな施設予約やチケットの提供を行なうとともに、窓口での接客・電話対応レベルの向上を目指し、職員の積極的な研修への参加を行なう。

また、貸出施設利用者に対するアンケート調査を実施することで、ニーズの把握を行なう。その結果を基にした備品の更新やサービスメニューの拡充、施設保全工事計画への提言などを通し、利用環境の改善や来場者の満足度アップを図っていく。

以上の施策を踏まえ、今後も利用者ニーズに沿った施設運営とサービスの導入を続けながら、「利用料金収入」、「施設稼働率」、「利用者数」の 3 大指標の向上を目指す。

【 数値目標 】

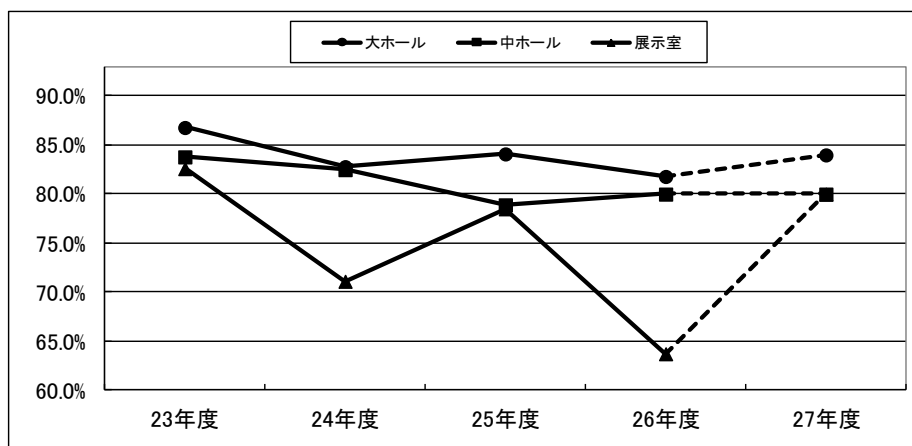
●3 大施設平均利用率 81.3% 【大ホール 84.0%、中ホール 80.0%、展示室 80.0%】

3 大施設利用率の推移

※26 年度は見込値、27 年度は目標値

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
3大施設利用率	84.4%	78.8%	80.5%	75.2%	81.3%
大ホール	86.8%	82.8%	84.1%	81.8%	84.0%
中ホール	83.8%	82.5%	78.9%	80.0%	80.0%
展示室	82.6%	71.1%	78.5%	63.7%	80.0%

※利用率は、貸出可能日数のうち利用された日数の割合



●本館等利用者数 230,000 人 / 本館等利用料金 61,000,000 円

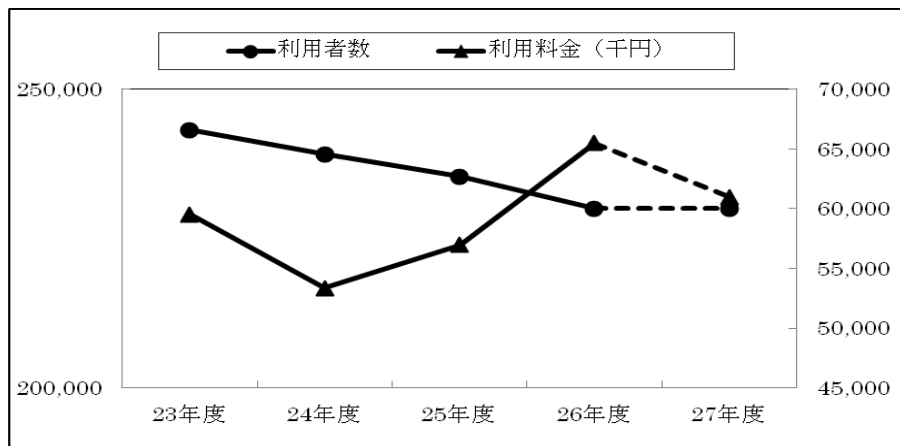
本館利用者数・利用料金の推移

※26 年度は見込値、27 年度は目標値

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
利用者数(人)	243,159	239,133	235,378	230,000	230,000
対前年比	89.2%	98.3%	98.4%	97.7%	100.0%
利用料金(千円)	59,530	53,359	56,967	65,512	61,000
対前年比	96.4%	89.6%	106.8%	115.0%	93.1%

※利用者数：本館一般施設利用者（図書館を除く）と視察者の合計人数

※利用料金：本館一般施設の利用料金収入額



② 公 1、収 1「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」

平成 27 年度に宗像市が実施する第二期保全工事は、イベントホールの床面、トイレ等の改修や本館の監視盤改修などが予定されている。イベントホールについては、4月中旬から3ヶ月間閉鎖する。各工事とユリックス利用者とのトラブルが起こらないように十分な調整を行っていく。

また、財団で行う修繕工事は迅速に対応し、施設の長寿命化やユリックス来場者の事故ゼロを目指す。

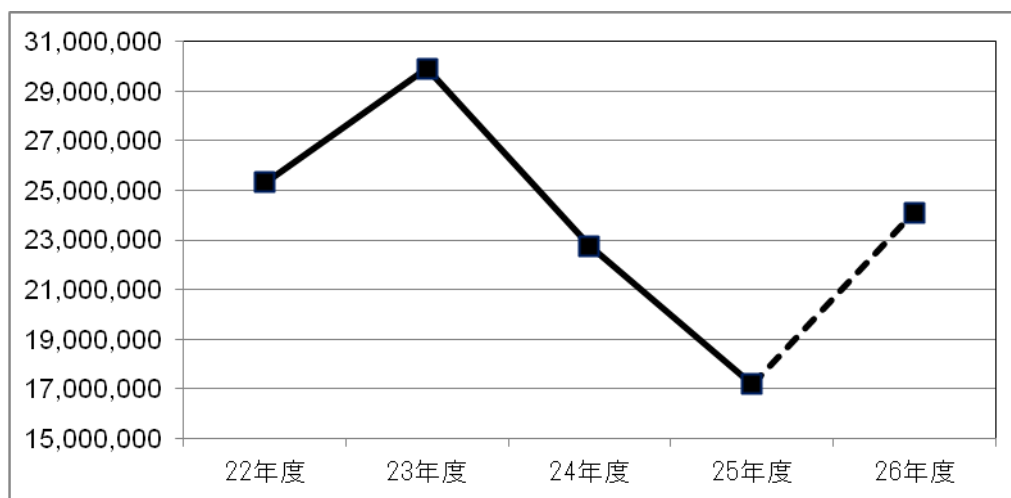
公園内の植栽管理は着実に実施されており、今年度も更なるレベルアップを目指していく。

安全管理としては各設備の法定点検の徹底や例年実施している防災訓練を2度実施する。

【 修繕状況 】

※26年度は見込値

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
修繕発生件数(件)	116	129	105	102	119
対前年度比	111.5	111.2%	81.4%	97.1%	116.7%
修繕費(円)	25,322,627	29,923,555	22,768,586	17,184,869	24,100,000
対前年度比	103.0	118.2%	76.1%	75.5%	105.8%



③ 収 2 「利用者サービス事業」

●自動販売機設置事業

利用者に飲食物の便宜を供するために公園内の 29 カ所に自動販売機を設置しており、設置業者から売上額の 15～35%を手数料として徴収している。

今年度は新たな設置場所や設置業者の入れ替えの検討を行ない、更なる手数料収入の増加を目指す。

●物品等販売事業

本館インフォメーション窓口において、傘、切手、収入印紙、テニスボールなどの販売事業を行なっている。今年度は、利用者へのアンケートの実施等を通してニーズを探り、より一層の利用者サービスの向上と収入の確保に努める。

④ 公 2 「文化芸術振興事業（文化事業）」

第三期指定管理期間は、「普及・参加・育成型事業重視」の方向性を堅持しつつ、宗像市文化芸術振興条例に定められた理念である「文化芸術に親しめる環境整備」、「文化芸術のための人づくり」、「文化芸術を活かしたまちづくり」の実現に向けた具体的な取り組みを宗像市と協働し推進する。

また、25 年度よりスタートした「宗像ミアール音楽祭」は、反響が非常に大きく、単発的なイベントとして終わらせずに継続的・発展的に取り組む。結果として、地域の人々の参加と共感を得ることにより、「新しい広場」としての役割を果たすとともに、文化芸術の担い手となる人材の養成と交流による市民文化活動の活性化に寄与していく。

そして、「むなかた芸術祭」、「むなかた吹奏楽祭」、「むなかた文化祭」、「むなかたこども芸術祭」の 4 事業については、市の文化行政の中核事業であり、市と十分な連携を取りながら、共催事業として取り組む。

●文化芸術に親しめる環境整備

＜コミュニティ・学校との連携による鑑賞機会の創出＞

第二期より取り組みを始めたアウトリーチ事業をコミュニティ・学校との連携協力により積極的に推進し、長期的・継続的なプログラムとして展開していく。平成 27 年度は、既に実施している九州管楽合奏団メンバーによる市内の幼稚園・保育所への派遣事業に加え、九州交響楽団メンバーによる市内小学校への派遣事業も本格的にスタートさせる。事業と事業を繋ぐことで、事業効果を更に高めていく。

＜鑑賞型事業の計画的な実施と工夫ある展開＞

一つひとつの事業を単発的な事業とせず、可能な限り連携させ、また、ワークショップを併設するなどの工夫を加えていくことで、新規鑑賞者の育成を目的とした計画的な事業展開を行っていく。

また、アウトリーチ事業への投入マンアワーの急激な増加もあり、担当者が計画的な事業運営が可能となる事業本数、内容を見極めたマネジメントを行っていく。

●文化芸術のための人づくり

市民文化活動の活性化を見据えて、文化芸術の担い手の養成や交流を積極的に推進していくため、財団のコーディネーター機能を高める。積極的な外部研修参加や先進地視察の実施などを通して、コーディネーターのスキル向上を図っていく。併せて、アーティストや地域との積極的な交流を通して、必要となる専門性や地域特性の情報について、時間をかけて蓄積していく。

●文化芸術を活かしたまちづくり

＜宗像ミアーレ音楽祭の継続＞

平成 25 年度に実施した宗像ミアーレ音楽祭の反響は非常に大きく、長期的な視点をもった事業展開が必要と考える。「ホールコンサート」はもちろん、「アウトリーチ」、「市民ステージ」の評価も高く、この形態を維持していく。

また、本音楽祭の大きな特徴は市民参画であり、市民の祭り、ハレの空間として位置付けて取り組む。

＜スマイルキッズプログラム＞

次代を担う子供たちへ文化芸術体験の場を積極的に提供し、直に触れることで生まれる感動や喜びを通して、豊かな感受性を育むことを目的とする。既存の事業に加え、新規事業を積極的に取り組み、教育分野との連携などによる効果的な広報を行っていく。「スマイルキッズプログラム」を実施することで、宗像市が都市ブランドとして目指す、「子どもがすくすく育つまち」・「子どもにやさしいまち」の実現に貢献し、公共ホールとしての役割を果たしていく。

【対象事業】

- ・ 小学校 4 年生芸術鑑賞モデル事業
- ・ いきいき出前コンサート(幼稚園・保育所・小学校対象など)
- ・ すくすくコンサート
- ・ むなかた子ども芸術祭
- ・ ユリックス・ジュニアブラス
- ・ ジャジャジャジャーで始まる・わくわく・ドキドキ♥オーケストラ体験
- ・ 九管ポップス ファミリーコンサート 他

●連携体制

宗像市・教育委員会・各コミュニティ運営協議会等との連携を積極的に行うことで、事業効果をより高めていく。「宗像市 文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の取り組みとして、コミュニティセンターでの文化芸術の鑑賞機会の確保を行ってきた結果、本年度より各コミュニティ運営協議会と連携し、「いきいき出前コンサート」を積極的に推進することを目的として覚書を締結する運びとなった。また、近年、積極的な交流が始まっている福岡教育大学と連携に関する協定を締結する予定である。今後も関係機関との連携体制構築も着実にやっていく。

●「ユリックス スマイルクラブ」運営

「ユリックス倶楽部」の内容を見直すとともに、平成 27 年度より、新名称「ユリックス スマイルクラブ」としてスタートする。従来の会員特典を見直し、会員がより使いやすい、よりメリットを享受できる制度へ変更する。

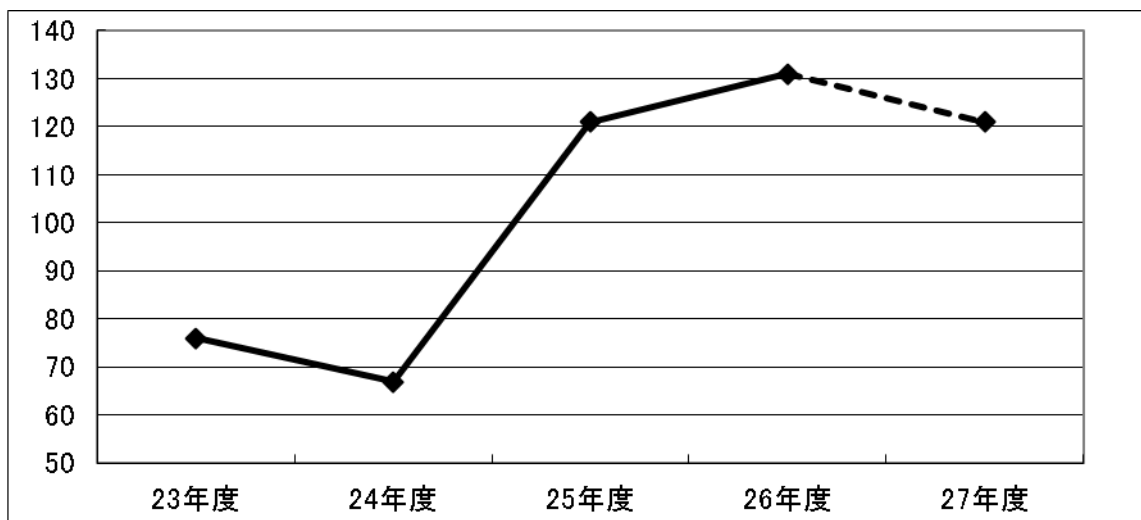
【 数値目標 】 ●事業本数 【121 本】

平成 27 年度は、共催事業を含め年間 121 本とする。

事業本数（ジャンル別）

※26 年度は見込値、27 年度は目標値

事業ジャンル	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
音楽(クラシック)	11	10	9	10	11
音楽(クラシック以外)	9	6	7	6	5
映画	16	13	16	14	12
演劇・古典芸能	10	8	8	6	3
美術	3	4	3	2	2
アウトリーチ	18	15	66	85	80
その他	9	11	12	8	8
合計	76	67	121	131	121



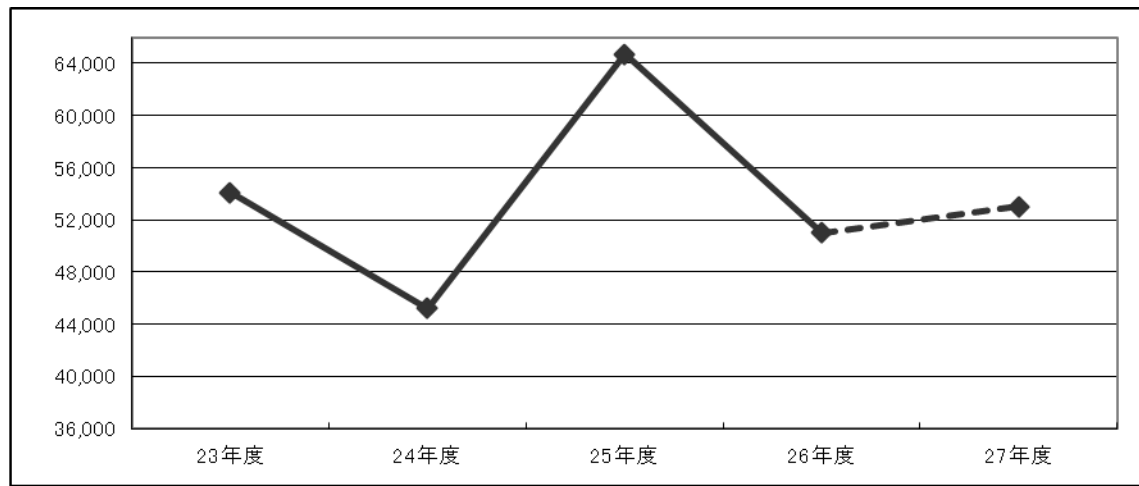
【 数値目標 】 ●入場者数 【53,000 人】

入場者数は、事業本数 121 本実施を前提条件として、53,000 人を目標とする。

文化事業・入場者数の推移

※26 年度は見込値、27 年度は目標値

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
入場者数	54,110	45,206	64,700	51,000	53,000
対前年比	141.3%	83.5%	143.1%	78.8%	103.9%
対前年人数	15,815	△ 8,904	19,494	△ 13,700	2,000



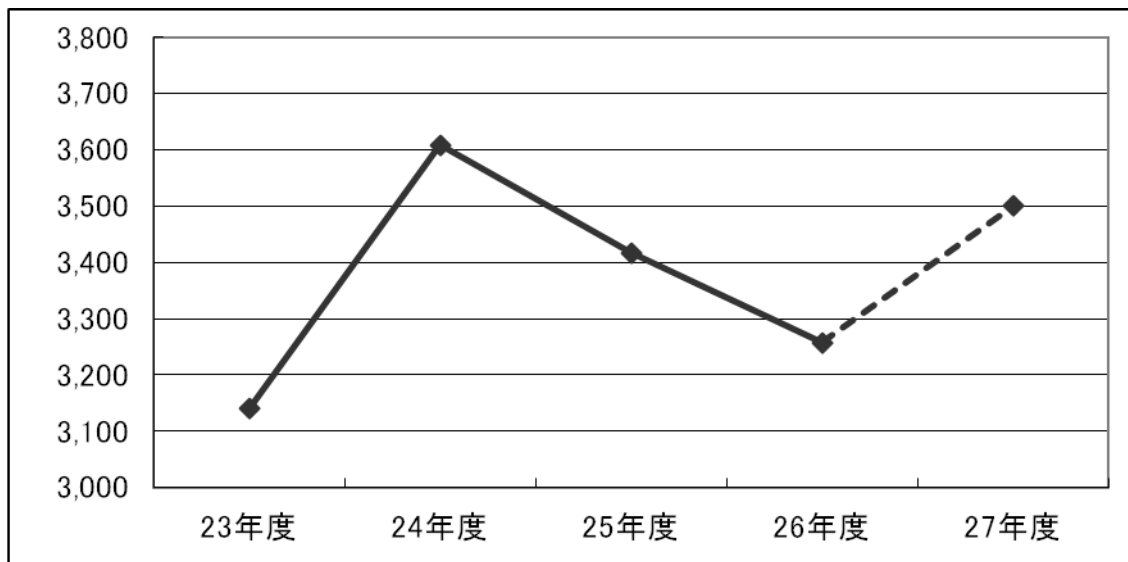
【 数値目標 】 ●ユリックス スマイルクラブ会員数 【3,500 人】

会員数目標を 3,500 人とし、会員数増に向けて積極的な広報を行う。

会員数の推移

※27 年度は目標値

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
会員数	3,140	3,609	3,417	3,257	3,500
対前年比	94.4%	114.9%	94.7%	95.3%	107.5%
対前年人数	△ 187	469	△ 192	△ 160	243



⑤ 公 2 「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」

平成 27 年度は入場者数を維持しつつ、地域に根ざした活動・文化振興に更に力を入れて進めていく。来場者のニーズに適合した質の高いプログラムの提供や観望会の実施、ボランティアの活動支援などに加え、昨年度より開始した小学生向けの講座やリラクセーションプログラムの夜間投影などを継続して実施していく。

● ニーズに適合した質の高いプログラムの提供

プラネタリウムでは、年齢層ごとに対象を絞ったプログラム展開が定着しており、これを今後も継続していく。

子ども向けプログラムでは、入場者がいつ来ても楽しめるよう、ショートストーリーの定期的な変更、クイズや落書きのバリエーションの増加など工夫を続けていく。

また、大人を中心に人気となっているリラクセーションプログラムでは、より星空や映像をゆったりと楽しめる空間作りを行うことに加え、昨年度より実施してきた夜間投影の入場者が増加するよう広報などを工夫していく。

おとな向けでは、国連（ユネスコ）が定めた国際光年に連動したプログラムや最新の宇宙・天文の内容を取り入れた内容などを実施していく。

県内の他のプラネタリウムとは違い、全て専門職員による生解説でプログラムを進めているという特色を、魅力として更に強く打ち出すことで、入場者増につなげていきたい。

● 学校団体利用促進の強化

今年度も学校団体向けプログラムの利用促進に取り組んでいく。その中でも、特に市内学校の利用促進に努めたい。

また、県内広範囲の小・中・特別支援学校に案内を送付することで、遠方からの来館もみられたことから、今後も広範囲への案内を継続実施し、入場者数増加につなげたい。

● 天文普及に関わる事業

天文普及に関する事業として、観望会の実施のほか、昨年度より実施を始めた小学生対象の講座「ほしぞら友の会」を継続して実施していく。月 1 回の例会を通じ、子どもたちが科学に対して興味・関心を持ち、正しい科学知識を育むことで、社会教育施設として将来を担う人材育成の場としていく。

● ボランティアによる天文普及活動の支援

ボランティア（ほしぞらスタッフ）は、市内外より現在 53 人の登録があり、観望会の企画・実施を中心に活躍している。昨年度より活動の見直しを進め、ボランティアが主体的となって実施する活動と、プラネタリウム事業をサポートする活動とを明確にしてきた。個々が参加しやすく、社会的欲求・自己実現欲求に適う活動ができるよう、支援する体制を整えていきたい。

● 広報活動の見直しと工夫

これまで、学校団体への利用促進や他施設へのリーフレット・ポスターの設置、アンケート回答者（5,000 件）への案内送付、JR 列車内への広告の掲出など、入場者数増に向けた広報活動を進めてきた。これらの広報活動を、より効果的に進められるよう見直しや工夫を進めていきたい。

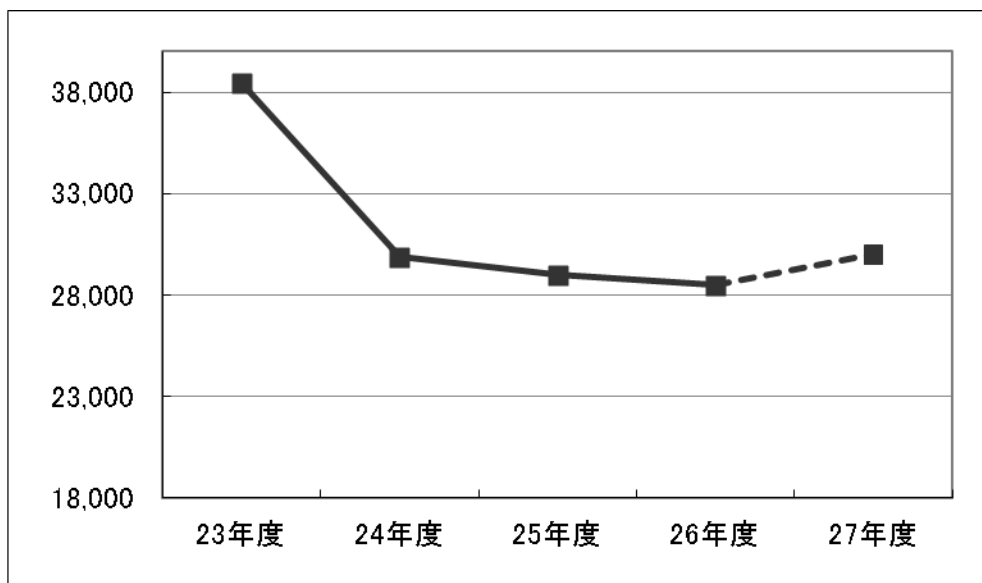
また、通年で実施する小学生対象の講座や年間パスポート制度、市内新小学 1 年生を対象にした招待券の配布などを通じ、小学生を核にした家族単位での入場者増を目指していく。

【 数値目標 】 ● 入場者数 【30,000 人】

プラネタリウム入場者数の推移

※26 年度は見込値、27 年度は目標値

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
入場者数	38,465	29,887	29,005	28,500	30,000
対前年比	193.0%	77.7%	97.0%	98.3%	105.3%
対前年人数	18,540	△ 8,578	△ 882	△ 505	1,500



⑥ 公 3 「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」

●アクアドーム

国や宗像市の健康・スポーツに関する計画等の趣旨・基本理念等と合致することを基本に、利用者の「総合的健康の維持向上」を行う。

(1) 健康づくりに関する情報の収集及び発信は、ホームページやアクアドーム新聞等の広報媒体によって実施

- ・主な事業であるウエルネスクラブとスイミングスクールや、新たに取り組むサービスを、広報紙や新聞折り込みチラシを通して周知を図っていく。
- ・アクアドームで行われる、イベント情報や健康情報を簡単にまとめた「月刊アクアドーム新聞」を、コミュニティセンターに配布する。

(2) 特定保健指導や介護予防事業など宗像市の健康づくり事業を積極的に実施

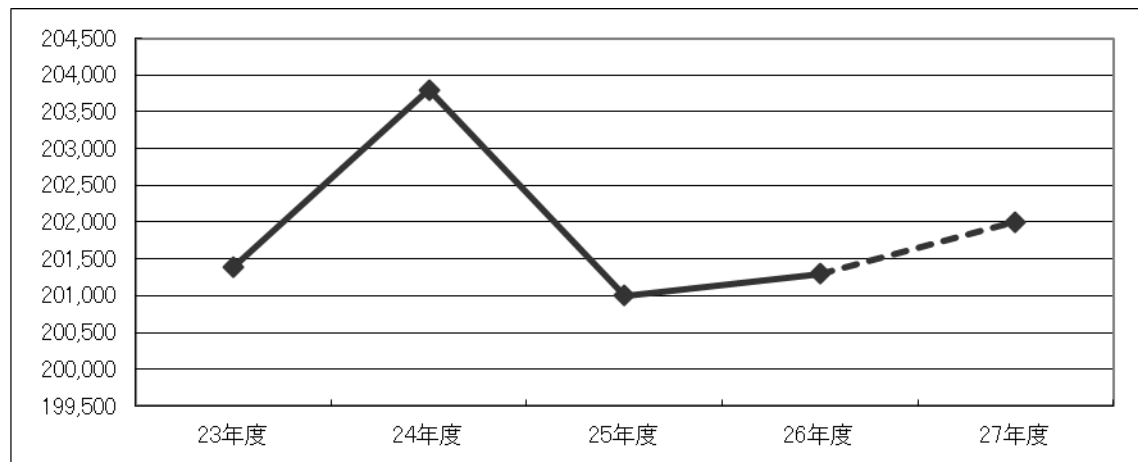
- ・特定保健指導の積極的支援、動機づけ支援、特定健診結果説明会での運動指導、特定保健指導対象者に指導参加を促す電話勧奨を行う。
- ・アクアドームの介護予防事業である「ここカラ・カレッジ」（陸上運動、水中運動、調理実習）の定員の拡大と陸上運動プログラムを、コミュニティセンターで実施できるようにする。

【 数値目標 】 ●入場者数 【202,000 人】

アクアドーム入場者数の推移

※26 年度は見込値、27 年度は目標値

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
入場者数	201,388	203,798	201,000	201,300	202,000
対前年比	106.0%	101.2%	98.6%	100.1%	100.3%



●ゆ～ゆ～プール

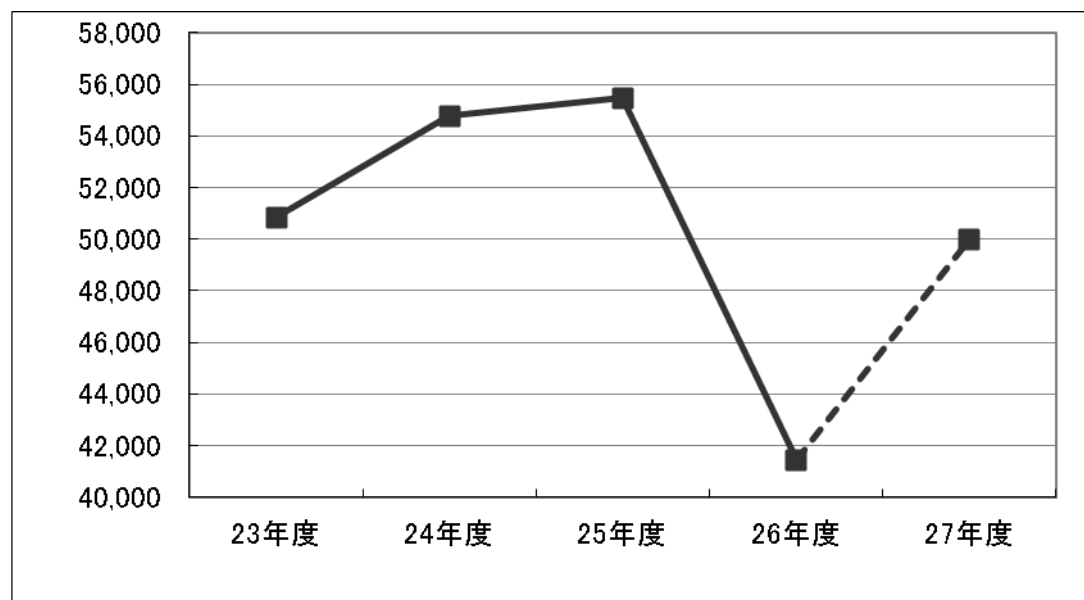
プールサイド等の利用環境が改善され、より快適なレジャープールとなった。これに併せ、幼児・小学生低学年が楽しく安全に遊べるサービスを実施していく。

【 数値目標 】 ●入場者数 【50,000 人】

ゆ～ゆ～プール利用者数の推移

27 年度は目標値

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
入場者数	50,855	54,772	55,477	41,430	50,000
対前年比	97.5%	107.7%	101.3%	75.6%	120.7%
対前年人数	△ 1,310	3,917	705	△ 13,342	△ 5,477



● パットゴルフ場

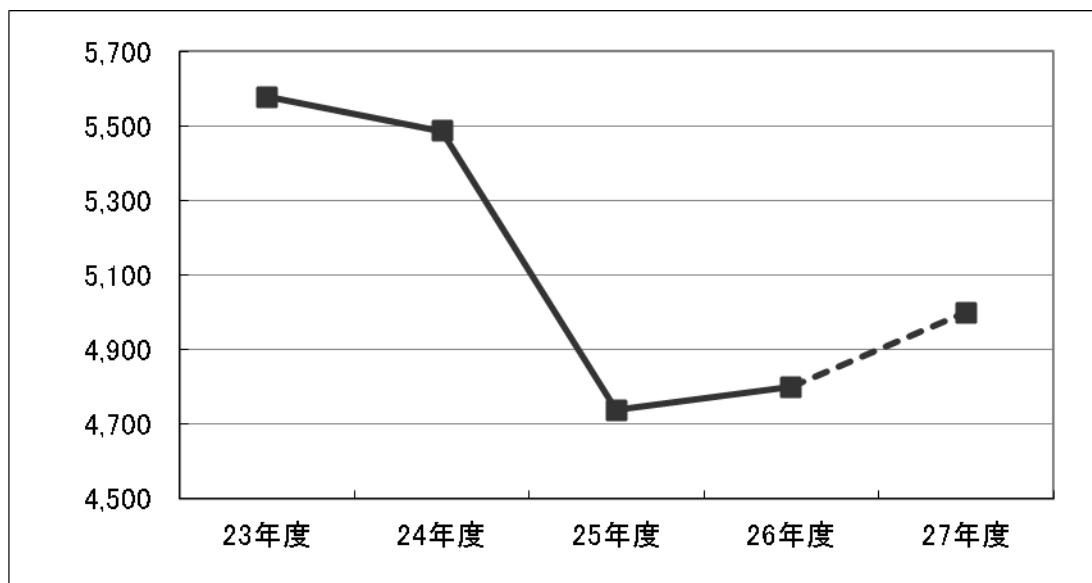
入場者の減少傾向が続いている。シニアやファミリーなど利用者を明確にしたサービスの継続やコミュニティセンター対抗の大会実施等により、トレンドの変化を目指していく。

【 数値目標 】 ●入場者数【 5,000 人 】

パットゴルフ場利用者数の推移

※26年度は見込値、27年度は目標値

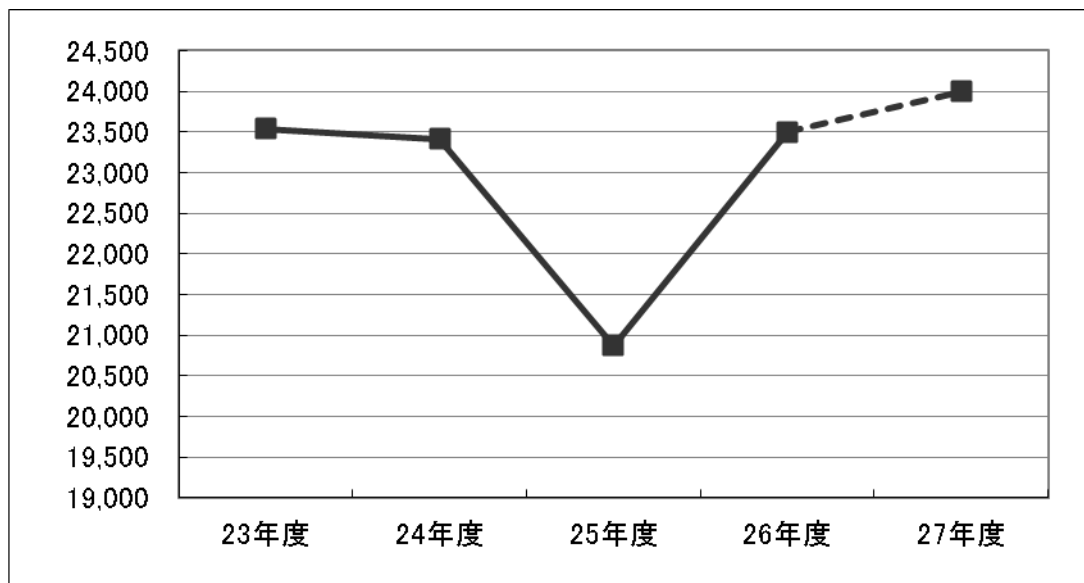
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
入場者数	5,578	5,487	4,738	4,800	5,000
対前年比	82.7%	98.4%	86.3%	101.3%	104.2%
対前年人数	△ 1,163	△ 91	△ 749	62	200



●テニスコート

新サービスの導入検討や積極的な広報実施により、入場者数の増をめざす。

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
入場者数	23,542	23,417	20,875	23,500	24,000
対前年比	87.3%	99.5%	89.1%	112.6%	102.1%
対前年人数	△ 3,431	△ 125	△ 2,542	2,625	500



⑦ 公 3 「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」

健康増進事業や様々なスポーツイベントを開催することにより、心身健やかな市民と活力のある地域づくりを目的とする。

- (1) ジム利用者のウォーキング距離管理サービスの実施
水中歩行の距離管理サービスと同様の方法で、ジムでの歩行・走行距離管理を行う。
- (2) コミュニティセンターでの調理実習開催
メイトム宗像で行っているクッキングメイツのレシピを活用し、コミュニティセンターでも調理実習を行う。
- (3) 小学生と保護者が一緒に行う「夏休み冬休み親子クッキング」の実施
小学生（3～6年生）対象に保護者と一緒におこなう調理実習を行う。
- (4) ランニング初心者や愛好家を対象とした、ランニング練習会の実施。
年間 11 回を予定、「ユリックスサラダ」に情報を掲載し、アクアドーム利用者以外の受け入れも行う。
- (5) 夏季スイミングスクール休止期間に、「水中運動教室」「初級水泳教室」開催
7 月 8 月のスイミングスクール休止期間に、1 回ごとの参加費を支払って参加できる教室を実施する。
- (6) 祝日に行う特別スタジオレッスン「祝日プログラム」の開催
平成 26 年度から実施している祝日のスタジオプログラムを継続して行う。
- (7) スクール受講生に対する、ビデオ撮影・泳法解説の有料サービスの実施。
泳ぐ姿をデジタルビデオで撮影し、ディスクをお客様へお渡しする。
会議室にて泳法解説を実施する。
- (8) スクール継続者の特典開設
ビデオ撮影、泳法解説を無料、又は割引料金で実施するなどスクール継続の特典を開設する。

(3) 法人運営

① 組織・運営体制

組織・運営体制では、理事の改選の年となる。6月開催予定の評議員会への議案上程に向けての業務を進める。

職員の体制については、現在の中核職員中心の体制を維持する。音楽祭、アウトリーチなどのため業務が過多となっている文化事業に嘱託職員1名を増員する。

法改正に伴い、臨時職員・嘱託職員の雇用年限が5年以内となったことに対する検討が必要となってきている。平成27年度中に財団全体の組織の検討を行う。

② 財政運営

平成26年度は、利用料金が約2割値上げされたために増収となったが、ゆ〜ゆ〜プールは悪天候の影響で大きく落ち込んだ。また、ミアール音楽祭の実施など財政面ではきびしい状態が続くものと考えられる。各事業のチケット販売の努力を続けると共に、文化庁などの補助金も獲得する。

安定化預金は、これまで定期預金での運用を続けてきたが、国債や地方債での運用に着手する。

支出面では、消耗品などの節約や各業務の効率化に努める。また、電力契約についての見直しに着手する。

【 指定管理費の推移 】

予算ベース	第一期指定管理費	第二期指定管理費	第三期指定管理費
管理運営コスト	357,308,000	346,083,000	368,828,000
対前期増減額	—	△11,225,000	22,745,000